

# 関西学院70年のあゆみ

— 中学生のための関西学院史 —

山本雅彌編

1958

# 関西学院70年のあゆみ

— 中学生のための関西学院史 —

山 本 雅 彌 編

1 9 5 8

# 関西学院70年のあゆみ

— 中学生のための関西学院史 —

山本雅彌編

1958

# 関西学院 70 年のあゆみ

## — 中学生のための関西学院史 —

### 目 次

I	関西学院に入つて.....	1
I	関西学院の出来るまで.....	1
II	原田の森にて(上)私塾として.....	4
IV	原田の森にて(下)発展へ.....	10
V	上ヶ原にて.....	17
VI	戦争と学院.....	19
VI	新しい時代・新しい学院.....	22
	あとがき.....	26
	参考文献.....	27
	附 録.....	29

## I . 関西学院に入つて

いよいよ中学一年生だ。何<sup>か</sup>新しい力がわいて来る。しかも僕達は激しい入学試験を通つてあこがれの関西学院中学に入つたのである。もう小学生ではないのだ。この中学部で中学生らしく一生懸命に勉強せねばならないという気持が体中にみなぎつている。それにしても僕は何故、中学に進むに当つて関西学院を選んだのだろうか。小学校の友達多くは入学試験もない公立の中学校に進んで行つた。しかし僕は激しい入学試験を受けて関西学院に入つたのだ。僕の友達のA君も一生懸命勉強してN中学に入つたし、Sさんも一年間の勉強が実をむすんでめでたくK女学院に入つた。僕のお父さんやお母さんが僕をこの関西学院中学部に進ませたのはきつとなにか他の学校とちがつたよい所が関西学院中学部にあるからだろう。中学部は公立中学とちがつて勉強もむづかしいし、落第もあるそうだ。それにもましてちがう所は毎日礼拝のある事だ。それが関西学院中学部の校風であり伝統でもあるのだ。この校風や伝統を早く僕達の中に取り入れてりつばな中学部の生徒になりたいものだ。校風は僕達の生活の仕方によつて決る。僕達ノ人ノ人が個性のある生き生きした、しかも規律ある生活をして行くとそれは立派な校風を作るもとなる。よい校風が生徒ノ人ノ人の努力によつて打ち立てられ、次にひきつがれて立派な習慣が出来るとそこにその学校の動かす事の出来ない立派な伝統というものが出来る。僕達の関西学院にもあのイギリスのイートン、ラグビー、リース等のパブリックスクールにもおとらない立派な伝統があるにちがいない。早くその伝統を受け継いでさらに立派な関西学院にするために僕達も又伝統を作つて行きたいものだ。

## II . 関西学院の出来るまで

我々の歴史の教科書をあけて見ると西ヨーロッパの中世が近世になる時に大きな動きが2つあることに気がつくだろう。ノつは北イタリアから始まつたルネツサンス（文芸復興）であり、もう一つはドイツのマルティン ルター やフランスのジャン カルヴァン によつて当時の世俗化したローマ教会に対するキリスト教世界の改革運動、

宗教改革である。この宗教改革運動はイギリスでもヘンリー8世の下で異つた形で行われた。1543年の事である。

こうして出来た英国のプロテスタントはエリザベス1世の時代に英国国教会と云う形で出来上つた。その後この国教会に対する改革がなされて来たが、関西学院を始めた人々であるメソヂイスト派の人々はこのような動きの1つとして生れた1派に属する人々であつた。

18世紀のイギリスは17世紀エリザベス1世以来の海外発展の結果、商業的精神が普及して居た。この頃には17世紀に社会を動かして居たピューリタニズムもおとろえ、宗教は一搬に形式的になつて居た。この時1729年から35年にかけてオックスフォード大学の学生の間で宗教的なホーリークラブ(Holy Club)と云うものがジョーン・ウエスレー、チャールズ・ウエスレー達によつておこされた。彼等は当時一般に守られて居なかつた戒律を守り、貧しい人々、病める人々に神の道を話して廻つた。こう云う人々を当時の人々はメソヂイスト(方式主義者)と呼んだ。これが後にこの派の人々の呼び名になつたのである。

ウエスレーは1735年にオックスフォードを去つてアメリカに3年の伝道旅行を行つた。当時のアメリカはまだイギリスの植民地だつた。このメソヂイスト派はそれより後アメリカで大きな発展をして、当時の西部開拓者の中に多くの信奉者を得て広くアメリカ全体に拡がつた。このようなアメリカ合衆国の全国的なメソヂイスト諸教会の力によつて関西学院が生れる事になつたのである。

18世紀の終り頃からイギリスで起つたキリスト教会の海外伝道運動はアメリカの諸教会にも伝わりアメリカでは1810年より組合派の人々によつてインドに伝道運動が始められた。

日本が鎖国の夢をアメリカのペリー提督の卒いる艦隊によつて破られた1853年頃はその海外伝道運動はアメリカにおいて非常に盛んであつた。そして実際1858年(安政5年)結ばれた日米修好通商条約以後キリスト教の宣教師はまだ日本ではキリスト教伝道は禁じられて居たにも拘らず来日して居る。そして彼等は将来のキリスト教伝道のための準備をした。プロテスタントの宣教師の中には1859年(安政6年)に来日した有名なヘボン、フルベツキ、S. R. ブラウン等が居る。彼等は或いは外人居留地で医師をしながら、或いは日本語を学びながら、又或いは英和、和英辞書を作り、



聖書を日本語に訳しながら、キリスト教伝道の許される日を待つて居た。

当時日本は16世紀末以来、豊臣秀吉、徳川家康によつてキリスト教（キリシタン宗門と云いローマ教会をさす）は禁止されて居た。然し外国との貿易をする事によつてキリスト教が入つて来るので、1637年（寛永14年）の島原の乱の後更にこの制限は強化され、遂に徳川家光は1639年（寛永16年）の鎖国~~條~~<sup>令</sup>によつて全く禁止してしまつて居た。

このキリスト教の禁止は明治維新によつても改まることなく、1868年（慶応4年）には従来通りキリスト教を禁ずる（切支丹禁制）と云う高札を出した。所が之に対して諸外国の公使達は政府に抗議をし、又1871年から2年（明治4～5年）にかけて特命全権大使として西欧事情を視察に出た岩倉具視等は各国でこの切支丹禁制について抗議をうけた。そこで一行の帰国後1873年（明治6年）、遂にこの禁制の高札を取除いて事実上キリスト教の伝道が許される事となつた。

このようにして一応キリスト教は公認されたが、永い間の習慣としてのキリスト教反対の空気は強かつた。その中にあつてキリスト教会は続々と作られて行つた。その最初の教会は公認以前の1872年（明治5年）3月に創立された横浜の日本基督公会であつた。神戸ではグリーン、ギユリツク等の伝道によつて摂津第一基督公会が1874年（明治7年）に作られた。京都には1864年（元治元年）にアメリカに密航して留学した新島襄によつて同志社が出来て伝道者を養成した。（1875年）このようなキリスト教の動きを知るためには熊本と札幌にも注目しなければならない。熊本藩では1871年（明治4年）に熊本洋学校を作り、アメリカの陸軍大尉ジエーンズ（キヤブテン ジエーンズ）を招いて英語と科学の先生とした。勿論この洋学校はキリスト教会のたてたものでもなく、又キヤブテン ジエーンズは宣教師でもなかつたが、彼の人格の影響は遂に1876年（明治9年）に30人余りのキリスト教信徒を生むに至つた。そのためにこの洋学校は廃校となつたが、彼等（熊本バンド）は京都の同志社に移つて学問を続け、伝道者となつたのである。

又札幌の物語は余りにも有名なものである。明治政府の作つた札幌農学校の教頭として招かれたクラーク博士の影響はその学生の中から多くのキリスト教信徒を出して札幌バンドと呼ばれるように





なつた。1877年（明治10年）の事である。

このようにして始められた日本でのキリスト教伝道は、その特徴の一つとして多くの学校をたてた。それは伝道者としての牧師の養成機関である神学校と、又キリスト教に基く有能な日本青年男女を作るための中学校、女学校であつた。

之等の中で先づ創立された学校は新島襄の作つた同志社である。そして新島はこの同志社を大学にしようとして1888年にはその計画が発表されて居る。

その他の学校の中主なものとして、1874年（明治7年）には神戸女学院、1877年（明治10年）には明治学院の前身である一致神学校が東京に、翌年には梅花女学校及び青山学院の前身である耕教学舎、1883年（明治16年）には立教学院等が創立されて居る。

そして関西学院は1889年（明治22年）9月にその歴史を始めたのである。

## Ⅲ . 原田の森にて（上）—私塾として—

阪急電車に西宮北口から乗つて神戸に行こうとすると、電車が西灘駅を過ぎて高架線にかゝる。その時右の方を見てみよう。そこには神戸の王子動物園がひろが居る。その動物園の敷地が関西学院が出来た原田の森の跡である。この辺り一帯は大正時代の始め頃（~~1912~~年頃）迄は大きな森であつた。今見える大きな煉瓦造りの建物は昔の中学部の建物、そして小さな方はブランチ メモリアルチャペルの跡である。

同チャペルの南側にある関西学院発祥記念碑が物語るように、関西学院はこゝで1889年（明治22年）に始められたのである。

アメリカのメソヂスト教会は南北戦争（1860~65年）の頃から南北に別れて居た。そして日本に宣教師を送つてキリスト教を伝えたメソヂスト教会は、従つてこのアメリカの南北両メソヂスト教会と更にカナダのメソヂスト教会の三団体であつた。

米国メソヂスト監督教会（北）とカナダメソヂスト教会は、1873年（明治6年）に日本伝道を開始した。前者は関東、東北及び九州地方に教会をたて、又学校を建てた。今日の東京の青山学



院（1882年）、長崎の活水学院（1879年）、諫早の鎮西学院（1881年）、弘前の弘前学院（1886年）、函館の遺愛女子高校（1882年）、弘前の東奥義塾（1922年）、福岡の福岡女学院（1885年）等はその系統の学校である。

それに対してカナダメソヂスト系としては、東京の東洋英和女学院（1884年）、静岡英和女学院（1887年）、山梨栄和学院（1889年）がある。この事が示すようにカナダメソヂストは中部地方を中心に伝道、教育事業を始めたのである。

一方米国南メソヂスト監督教会は、之等の教会より少しおくれて1885年に日本伝道を始めるとに決定した。1886年（明治9年）にはJ. W. ランバス、その子W. R. ランバス及びV. A. デュークスの3人が宣教師として神戸に上陸、老ランバスは広島地方、デュークスは琵琶湖地方、若ランバスは根拠である神戸地方を受持つことになった。その結果として出来たのが関西学院である。尚その他の学校としては広島女学院（1893年）及び神戸女学院の裏にある聖和女子学院（1901年）も我々と同じ系統に属する学校である。聖和は昔はランバス女学院と称して居た。又今神戸で実用英語学校として有名なパルモア学院も老ランバスが始めたものである。

このような時代に関西学院は始められた。二階を寄宿舎に、階下を教員室、教室、講堂にした小さな建物で、7人の教師と、27人の学生（神学生8人、普通学部生徒19人）で始められた。こうして出京上つた関西学院は院長W. R. ランバス、神学部教頭J. C. C. ニュートン、普通学部教頭N. W. アトレーの陣容で始めた。当時の日本人の先生としては、中村平三郎及び後の名誉院長吉岡美国先生達が挙げられる。

関西学院の名前については吉岡先生のお話しがくわしく説明して呉れる。

学院創立に際して、ランバス先生と命名に就て考えた。先生は漢籍に基く命名等にも理解があられた方であつたから、弘道館と云う様な名も考えられた。然し水戸の弘道館等の模倣の様でためらつた。又余り立派な名は名負けがしていけないといふので平凡な名を選ぶ事にした。当時民間ではまだ関西と云う名をつけたものは無かつたが関東に対する関西として西日本の指導者ともなる意味で関西学院と名付けることになつたのである。学院と云つた



のも他に例のないことで今日何々学院と称して居るものも、当時は未だその様に呼ばれて居なかつた。当時ミツシヨンスクールは多く何々英和学校、何々英和女学校等という風に呼ぶものが多かつた。こうした伝統をやぶつて命名が行われた訳になるのである。又関西をカンセイと漢音で呼びカンサイと呉音で呼ばないのは、命名当時のいわゆる新進学徒は諸事革新的な気風から東京をトウケイと読む様に漢音でばかり読む傾向があつたので学院の名も漢音でカンセイと呼んだわけでこれが偶々後に多く出て来た関西の文字を持つ団体学校が一般にカンサイと呼ばれるのと判然たる区別をすることになつた。（関西学院時報第ノ3号）

こうして出来上つた関西学院はその規模の上でも今日のものとはお話しにならない程小さな、いわば私塾のようなものであつた。又その内容も今日のものとは随分異つて居る。

当時の学校制度は今日の小学校が6年の義務制であるのに対して4年だけが義務制であつた。そしてその上に4年間の高等小学校があつた。関西学院の普通学部に入學出来る人はこの高等小学校2年を修了したもの（即ち今日の小学校卒業生）であつた。

普通学部は予科2年、本科4年であつたから予科は今の中学部の2年迄、本科は3年から高等部の3年迄に大体相当するわけである。神学部はその上にあつたのである。そして始めの中は新学年度はアメリカと同じく9月から始まつて居た。

この普通学部の制度はその後ノ894年（明治27年）に予科、本科を通じての6年制を5年制に改めてノ947年（昭和22年）迄続いた。

この様に規模、内容共に今日の学院と異つて居た当時の学院には多くの逸話が秘められランパス初代院長の次の第二代院長吉岡先生の人格を中心として家庭的な学院生活が営まれて行つた。

今その逸話の数々をひろつて見よう。

## 1. 服装と校章

普通学部の服装を一定にしたいという意見はずいぶん古くからあつたが、ノ893年（明治26年）2月6日のキリスト教青年会（現在のJ.H.Cの様なもの）の討論会には久留島武彦が発題者



となつて服装を一定にするかどうかを議論し、それがもととなつて普通学部の生徒大会は盛んに議論をたたかわせた。関西学院は元来規律訓練を主張する思想と、自由自立を説く思想がよく議論をまきおこしたのであるが、この制服の問題がまとまらなかつたのでとりあえず帽子と校章を決める事になり、1874年（明治27年）、教員と生徒の両方から委員会を設けて協議の結果、生徒側から新月を、教員側からK.G.を出して理想を求めて常に向上進歩をして行く象徴としての校章は実にこの普通学部の校章に始まつた。之が後に全学院に及んで今日に至つたのである。

## 2. スクール・カラー

当時の高等部の英文学の教授としてこられた婦人、ガーナー先生はウエンライト部長と外国の学校には各々スクール・カラーがあるので関西学院にもスクール・カラーを作ろうと思われた。そして1905年（明治38年）頃、紅と白をもつてスクール・カラーとした。紅は熱愛、白は純潔を示し、又国旗の色でもあつた。現在の中学部野球部選手のスツッキングに紅白を用いて居るのはこの時以来である。

なお、1928年（昭和3年）に専門部学生会（現在の大学学生会に相当）は新月と青空とを色どる紺青と銀白をもつてスクール・カラーにしたので、これから後は中学部のスクール・カラーは紅と白、学院全体としてのスクール・カラーは“ブルー ホワイト アンド ブルー”となつたのである。

## 3. 自助会

関西学院の始めの頃に入つて来た人々は、多くは信仰のために家からの仕送りもなしに来た人が多かつたので、額に汗して働いて授業料を得なければならなかつた。この人々は他にたよる事をせず、自分の力で活動して行き1879~2年（明治24~5年）頃、自助会という団体を作り、校舎、校庭の掃除、学院と神戸郵便局との間の郵便物の運搬、寄宿舍又は校内教師住宅用の食料品





を買つたり運んだり、牛乳を小売りしたり配達したりしていた。その後乳牛を買つて牛乳屋を始め、その利益を学資にあてた。そしてその分配は学資を一番必要とする人に一番多く、そうでない者は少く分配して何の不満もなく、互に喜んで力を出し合つた。こうしてこの自助会は乳牛ノ7頭を買うまでになつた時もある。中には市内の牛乳屋の拍書を受けた者もあつたが、それほどに内外の信用があつたわけである。

#### 4. カレツジ・ソング

関西学院は始めから国語漢文以外は全部英語で授業をしており、このため英語にかけては創立当時より関西学院の右に出るものがなかつた。そしてカレツジ・ソングを作ろうではないかという事になつた。当時の音楽の先生岡島政尾女史がアメリカのプリンストン大学のカレツジ・ソングから改変して作つたのが現在迄歌われて居る Old Kwansei である。これは 1897年 (明治30年) 頃のことである。そしてこの頃にはかの有名な音楽家の山田耕筈も関西学院普通学部の一生徒であつた。

#### 5. 公明正大

関西学院中学部には普通学部の昔からノつの標語がある。それは「公明正大」という言葉がある。今そのノつの例を第4代中学部長の西川玉之助先生の言葉をかりて紹介しよう。

私はある学期試験の時、まず問題を黒板に書いてていねいな説明をした後、「もし質問があれば今しなさい。私はこれから魚つりに出かけ教室におらぬから、答案の出来た人は私のテーブルの上に積んで静かに出て行きなさい。最後になつた人は答案を一まとめにして私の家に持つて行き、妻か女中に渡しておいて下さい。」と云つて敏馬の浜へベラつりに行つた。この事を永井柳太郎君が早稲田で話したが皆大ぼらだといつて信じなかつたそうです。(関西学院60年史)



そして、まれに不正手段を取った生徒があつた時には、全校の生徒がふんがいし、寄宿舍からその持ち物をこうりにつめて追い出すのを常とした。

## 6. ブランチ・メモリアル・チャペルとアイゼンブルグ少年

学院が発展してくると共に、わずか74坪の校舎では小さくなり、講堂を新しく建てようと言う動きが起つた。時の普通学部部長ウエンライト先生はアメリカに1年の休暇で帰られた時、その1年の休暇を講堂建築の募金のために費された。そして学院を始める時に土地買収の費用を寄附したトーマス・ブランチ氏の子息、ジョン・ブランチ氏から多くの寄附をうけて礼拝堂がたつに至つた。之が今も我々が王子公園のそばに見る建物であり、之をブランチ・メモリアル・チャペルと名付けた。1904年(明治37年)のことである。

このブランチ氏の寄附にも劣らない物語りもこのチャペルの陰にある。それは、ウエンライト部長がミズリー州のある町で説教をして寄附金の事を話した時、8~9才の少年が50セントばかりの金を出して、之を日本の兄弟のために献じようといつた事である。その少年はヘンリー・アイゼンブルグと云つて夕刊売りをして得た小遣いの中からその大半を日本のために献金したのだつた。

彼はその後、ミシシッピ河でボートに乗つて居た時に不幸にもボートが沈み、友達を助けて自らは犠牲となつたのである。関西学院のある限りこのような美しい話しは語り伝えたいものである。

## 7. 自修寮

関西学院の創立当時の校舎2棟は、その後本館が出来てからは(1894年〔明治27年〕)寄宿舍専用となつた。そこには神学生と普通学生が生活していたが、後に北側の寮を普通学部生専用にした。そして日露戦争から帰つて来た中村賢二郎先生が初代



の舎監となり、<sup>案</sup>1908年(明治41年)には自修寮と云う名が与えられた。この案は1929年(昭和4年)学院の上ヶ原への移転の時迄多くの中学生の思い出と共に続いた。そして我々の先輩はこゝで関西学院精神を学び取つたものだ。

## 8. 真鍋うなぎ

普通学部が他校に誇る事の出来た1つのものは動植物の標本であつた。之は生物の真鍋由郎先生(後の第7代中学部長)が米国留学から帰り、1908年(明治41年)1月、恩師西川玉之助先生(後の第4代中学部長)を記念して標本を集めた事に始まる。之を西川生物学標本(Nishikawa Biological Collection)と云う。

標本は後に500種近くにもなつた。たまたま1909年(明治42年)にアメリカの生物学者であるスタンフォード大学総長シヨルダン博士が学院に来られた時、これを見、その魚類の標本の中に新しい種類のうなぎのあるのを発見した。そしてそのうなぎは真鍋先生の名のもとに「真鍋うなぎ」(Anguilla Manabei)と云う学名が与えられた。

尚この標本は現在高等部に保管してある。

## Ⅳ. 原田の森にて(下) — 発展へ —

このように家庭的な、そして信仰の上に立つた立派な学院であつたのに何故関西学院に入学する人々は当時少なかつたのであろう。実際、例を普通学部の卒業生にとつて見てもその数は附録の図表のようになる。

何故だろうか? それには理由があつた。当時の関西学院の普通学部の生徒は卒業しても上級の学校に行けなかつたからである。そのために山田耕筈も普通学部の生徒であり、今もその事を誇りとして居るが、卒業前に他の中学校に転校しなければ上野の音楽学校に入れなかつたのである。又有名な政治家の永井柳太郎も早稲田に行くためには普通学部から他の中学校に転校せねばならなかつた。そ



れでは関西学院は何故そんな不便な学校だったのでしょうか？ 当時文部省の定めた学校令と云う法律は非常にきびしく公立学校と私立学校とを区別して居た。そして文部省の作った中学校令と云う法律に合う学校に関西学院をしようとする学校でキリスト教教育が出来なくなるのである。そしてもしそうすれば関西学院は唯単に英語が素晴らしい学校と云う特徴しか持たなくなり、関西学院の建学の精神が失われて了うのである。その故に多くの不便をしのいでキリスト教教育を続けて来たのであつた。

然しその中であつても中学校令による関西学院普通学部にしよととする運動も続けられ、そのキリスト教教育とがどのようにして結びつくかが問題とされ始めた。一方文部省も今迄のようきびしくそのような差別をする事をだんだんしなくなつて来たので、関西学院普通学部も中学校令による学校にしよと決心するに至つた。そして聖書の時間を修身の時間としてすることにした。このようにして普通学部は遂に1909年（明治42年）に文部省の認可を得て中学校令による学校となつた。

文部省告示<sup>私</sup>第222号

兵庫県市~~町~~関西学院普通科（但明治44年以降ノ卒業者ニ限ル）ヲ中学校卒業  
者ト同等以上ノ学力ヲ有スル者ト指定ス（関西学院50年史より）

このようにして関西学院の歴史は一步前進して行くことになつたのである。

又丁度この頃カナダ・メソヂスト教会も関西学院の経営に加わることになつた。同教会は東京に麻布中学と東洋英和学校を持つて居たが、あまり成功しなかつたのでこの際関西学院を南メソヂスト基督教会（南美以教会）と協力して経営することになつたのである。之は1910年（明治43年）5月のことである。その結果として従来の15000坪（1906年6月に5000坪を追加購入して居たので）に加えて更に東部及び東北部に新たに1万坪を購入出来ることとなつた。この合同経営はこのように土地がふえただけではなくして関西学院の内容にも一つの進歩を与えた。それは高等学部の新設であつた。この高等学部は従来の普通学部の上の4年制の学部で、今で云うならば短期大学と大学の間にあたるものである。そしてこの学部はそれ迄も度々開設の運動がされたのであつたが、この時始めて実現の運びに至つたのである。こゝに関西学院は





1912年（明治45年）より普通学部と神学部は文科と商科のある高等学部も加わつて大関西学院の一步が始まつた。このような意味で1909～12年（明治42～45年）は普通学部にとつても、又関西学院全体にとつても一大発展の時期であつた。

普通学部は第3代部長ヘイガー先生のおあとを継いだ西川先生のもとに発展の一途を辿つた。文部省の認可と共に生徒数は増加した。そのため1894年（明治27年）以来使用して居た建物は狭くなつた。そこで新しく拡張した土地の東北部に定員600名の木造二階建の校舎を新築した。1913年（大正2年）の事である。

又1915年（大正4年）より普通学部は中学部と改称した。それ迄は関西学院は宗教教育を行つて居たので文部省より中学と云う名前をつける事を許されて居なかつた。然しその頃になると文部省の規則も前程厳しくなくなつたので、関西学院中学部と称することになつたのである。

このようにして発展した中学部にとつて大きな災難となつたのは、第5代野々村部長の時におこつた火事であつた。1917年（大正6年）2月28日の出来事である。そのために中学部校舎は全焼し、1919年（大正8年）4月に新しい、今の王子公園に見るような煉瓦造りの校舎が出来た迄の2年間はバラック生活の授業をうけねばならなかつた。

この頃第2代院長として1893年（明治26年）以来その職にあつた吉岡先生は、健康を害されて1916年（大正5年）、23年間の院長の職を神学部長J. C. C. ニュートン先生にゆづられた。学院は吉岡先生の永年の学院に対する功績に対して名誉院長の称号を贈つて永く記念することにした。当時は関西学院をめぐる交通機関が整備した時代でもあつた。神戸の市電が上筒井迄敷設されたのが1918年（大正7年）、国鉄灘駅が新設されたのが1917年（大正6年）、そして阪急電車の神戸線は今の市電の上筒井1丁目の停留所に神戸の終点が出来たので、（1920年〔大正9年〕）、関西学院は之等3つの交通機関の便利さが活用される地位となつた。

このようにして大きくなつて来た関西学院は1921年（大正10年）には高等学部が2つに分れて、1つは文学部となり、1つは高等商業学部となつた。これで我々が図書館の玄関の所に見るような関西学院の4学部が出来たのである。即ち楯の中の新月は中学部



1922

を、書物は聖書で神学部を、ペンは文学部を、そしてギリシヤ神話の商業神マーキュリーの持つて居た杖は高等商業学部を現すのである。又翌年には中央講堂が落成した事も発展を示す一つの大きな事であろう。

1920年（大正9年）9月には第三代ニュートン院長は健康上の理由のため辞職され、後任としてベーツ先生（高等学部長）を迎えるに至った。

この頃、関西学院の創立者であり、世界中にキリスト教を伝えた人ランバス先生は、横浜の万国病院でなくなられたのであつた。1921年（大正10年）9月の事である。そして関西学院で学院葬の後その遺骨はランバス夫人の意志によつて、上海にあるランバス先生のお母さんの墓のそばにほうむられる事となつた。（ランバス先生のお父さんのお墓は現在も再度山の修法ヶ原奥にある外人墓地にねむつておられる。）

1925年（大正14年）にはランバス先生を記念するため、肖像画をアメリカのE. S. ハーグスハイマー嬢におねがひして作ってもらい、又大隅氏広氏にたのんでランバス先生の胸像を作ってもらい、共にこれらは、同時に作られた3代院長ニュートン先生の肖像画及び胸像と共に図書館にかざられて居る。

中学部の講堂にかざられているランバス先生の肖像画は1954年（昭和29年）中学部の同窓の1人の児島氏がお母さんがなくなられた記念として母校中学部に寄附されたお金によつて、長尾画伯に依頼して作つていた肖像画である。

なおニュートン先生は1923年（大正12年）、関西学院を去られたが、その際に記念として銀杏の木を中央講堂横に植えられた。その木は上ヶ原移転と共に移されて宗教センターの西側にある。

今この時代のエピソードの2~3を拾つて見よう。

## 1. マスタリー フォア サービスとベーツ先生

図書館の玄関の上にある校章については既に学んだが、その校章には英語で書かれた校訓 'Mastery for Service' が刻み込まれて居る。これは当時の高等学部長（1912年~1917年〔明治45年~大正6年〕）ベーツ先生の残された言葉であ



る。今こゝに当時ペーツ先生自身が書かれた文章を通して  
‘Mastery for Service’ について学ぼう。

人間の性質には2つの方面があります。一を個別的な私のものとし、他を公共的な、社会的なものといたします。

今や私どもの性質における此の両方面は、あわせて‘マスタリニ・フオア・サーヴィス’の中にあります。私どもは弱きを求めません。強からん事を願います。主たらん事を願います。智識の主、己の大望、情慾、はまた富の主たらん事を期します。私どもは奴隸とはなりません。他人の奴隸、境遇の奴隸、自分の情慾の奴隸、それ等を私どもは排します。しかし私どもが主となろうとする意味は自分一人の富を求めてではなく、世の中に奉仕するためであります。私どもは広い意味で人道の下僕となろうとするものです。人は社会に奉仕する処に比例して、偉大と称せられるのであります。私どもが主となろうと求めるものは、自分の威を張り、自分を富ませるためでなく、自分の生きていたという~~事~~のために世界が少しでもよくなる様に、何等かの有用な務をするものとなるためであります。

事

## II. 関東大震災と学院の活躍

1923年（大正12年）9月1日午前11時58分に関東地方~~方~~をおそつた大地震は横浜東京を一挙に焼野原としてしまった。この時、関西学院のキリスト教青年会は救済事業の必要を感じて関西学院関東大震災救済団を組織したが、これは宗教部の事業にまかすべきでないとして全学院がこの事業に参加する事になつた。そして学生8名は東京に入つて、東京府の指揮のもとに救済事業に参加、東京の京橋、神戸の居留地、三宮駅の3ヶ所に救済支部をおいて避難民を送迎した。そして小さな中学生が残暑に日焼けし乍ら、又暴風の中を大きな荷物を運搬したり、上級部の学生が係員よりも秀れて活躍したことは当時の人々が大いにほめちぎつた事であつた。こうして1週間、全校から古着や毛布を集めたり教職員は月給の一部をさき、学生生徒も募金をして関東に送つたりして救済につとめた。又中学部も焼け出された生徒を40~50



名收容して共に勉強し、その内の幾分かの人々は東京が復興しても中学部に正式に転校して残つた者もあつた。

#### III. 中学部野球部 (その1)

野球といえば僕達は夏の大会と春の選抜野球を思い出す。この夏の大会は1915年(大正4年)に朝日新聞社が第1回を豊中大門球場で始めたものであつた。1917年(大正6年)第3回大会のとき中学部は兵庫大会に優勝して、当時の鳴尾球場の全国大会に出場した。まず広島商業を破り、続いて京都府立2中、さらに準優勝戦では東北の盛岡中学と接戦し、1A-0でこれに勝つた。優勝戦では愛知1中と対戦、6回表で先づ1点を取り、その裏で2ダウンの後、次のバッターが4球で1塁に進んだ頃、雨のためドロゲームとなつた。そして翌日の再試合には14回の延長の末、敵に1点を取られてやぶれた。

又、1918年(大正7年)にも兵庫大会に優勝し、今年こそはと思われたが丁度その年は物価高で、全国的に米騒動という暴動が起つたので残念ながら全国大会は開かれなかつた。

翌1919年(大正8年)にはキャプテンでありピッチャーであつた沢昇君を中心に猛烈な練習を行い、沢は病身をおし、又姉の死をもかえり見ず、ひたすら中学部野球部のために奮闘をつゞけた。8月14日、鳴尾でまず松本商業と対戦して6-0で破り、17日には前年に負けた愛知1中を5-3で破り、18日には鳥取中学を14-3でくだし、翌19日の優勝戦には慶応普通部を17-0で破り、こゝに堂々と優勝旗は中学部のものとなつたのである。しかし母校のため健闘した沢君は、その後病気が重くなり、ついに翌年3月卒業後間もなく世を去つた事をわすれてはならない。中学部の優勝には彼の生命がかゝつていたのであつた。

#### IV. 中学部野球部 (その2)

中学部の野球部は春の毎日新聞社主催の選抜野球にも出ている。即ち1928年(昭和3年)の春には甲子園に中学部、チームも





出場する事になつた。中学部野球部の黄金時代は、1920年（大正9年）の優勝が最後であるかのように見えたが、生徒時代に野球の選手であつた村上彦次先生が1925年（大正14年）9月から中学部の教師となり、野球部選手の技術と勉強を指導されてこの日を迎えたのであつた。第1回戦には下関商業を、次いで甲陽中学、高松商業を下し、和歌山中学との優勝戦となつた。そして2-1でこれを破つて優勝したのであるが、そのかけには一つの逸話が秘められて居る。即ち村上先生の夫人はこの大会の初め頃から病氣であつたが、4月5日の優勝戦の日には危篤状態となり、先生を始め周囲の人々の看護もむなしく午後1時半永眠された。丁度その1時半には試合は二回裏であり、我が望月が4球で出、選は1アウトとなつた。村井4球の後、加藤がセンターレフト間に2塁打を放つて望月生還し、優勝が確定した時間であつた。当時の教頭真鍋先生は次の如くいわれた。

“She led the game to victory”（彼女が優勝させたのだ。）

この結果として、我が野球部は毎日新聞社からアメリカ訪問旅行の機会を与えられ、真鍋教頭、石井先生と共に一行3名は6月27日神戸港を出帆、ヴィクトリア、ヴァンクーヴァー、シヤトル、ポートランド、サンフランシスコ、オークランド、サクラメント、ロスアンジェルス、ハリウッド、サンピドロを見学、ホノルルに寄つて9月3日に帰校して居る。

## V. 中学部陸上競技部

当時の運動競技として中学部で活躍した部には陸上競技部があつた。1917年（大正6年）には円盤投げ選手として宮本常蔵を東京での第三回極東オリムピックに送つた。又1927年（昭和2年）には木村一夫を上海での第8回極東オリムピックに走り高跳びの選手として送つた。彼が少年にもかゝらず1m82で第二位に入賞して居る事も忘れてはならないものの一つであろう。



## V. 上ヶ原にて

有名な英文学者の福原麟太郎先生がある雑誌に書かれた記事にこう云うものがある。

‘日本に居乍らアメリカの大学の美しさを知ろうと思うものは西宮の関西学院を訪れるとよいであろう。’

全く我々の関西学院は美しい学院である。特に甲山を背景にそびえる図書館を中心とした中央芝生の美しさは我々の誇りである。この美しい関西学院は何時出来たのであろうか。そして又何故原田の森から移転したのであろうか。

学院の移転は神戸の発展と関係がある。灘駅が出来、阪急、市電が通じた事は先に学んだが、その結果として原田の森一带は住宅が並ぶようになり、又市電は更に東に延長されるように計画された。それが実現すると（現在の石屋川線）関西学院の中央を横切る事になる。そうするとランバス先生が関西学院を原田の森に建設した意味の半分が失われるので、1926年（大正15年）夏頃より移転案が色々と考えられた。そして垂水、裏六甲、表六甲、住吉等の候補地が出たが、遂に1927年（昭和2年）5月に現在の上ヶ原に移転することに決定し、1928年2月29日に起工式が行われた。新校地は約4万坪で、従来の26000坪よりはるかに大きく、ここに今日の大関西学院の基礎は出来上つたのであつた。

1929年（昭和4年）の新校舎完成によつて、その年の4月から上ヶ原時代が始まるのである。

新校地は甲山を背景として建つ、竹中工務店主人、竹中藤右衛門氏の寄附になる図書館を中心に、右側に文学部、神学部、そして宗教館（現在の宗教センター）、左側に高等商業学部（現在の経済学部）、中央講堂、本部があり、南西の隅に中学部、その間に学生会館、寄宿舍、北には10軒の外人住宅と6軒の日本人教授住宅があつた。そして電燈線等は凡て地下に埋没して美観をそこなわないようにした。又この新校地には武藤山治氏寄贈の建物（現在の大学学生会本部）、元地主芝川又右衛門氏の喜寿を記念しての77本のくすのき等の記念物がその歴史を物語り、原田の森で一番多くの学生が出入した西門も上ヶ原に移されて、今は大学本部の門となつて居る。

この新校地は将来関西学院に大学を置く予定のもとに設計されたものであり、従つて上ヶ原移転と共に大学昇格運動も活潑になつて



来るに至つた。この大学昇格は関西学院では随分古くから議論されて居た事であつた。1918年（大正7年）2月に文部省が出した大学令によつて今迄国立の大学（帝国大学）だけしか認められなかつたものが、府県立、又は私立でも認められるようになった。その時高等学部学生会は1919年（大正8年）1月に大学昇格の決議をし、当時の理事会も之を受け容れて居る。その後上ヶ原移転によつて色々な点から大学昇格が可能になつたので、1932年（昭和7年）3月には大学設置を文部省に申請、認可を得た。こゝに関西学院は更に新しい段階に入つた。

大学長は院長のベーツ先生、大学予科長には菊池七郎先生が就任して同年4月に大学予科入学式が行われた。この頃の大学は5年制の中学を卒業して2年の大学予科の後に入る3年制の大学であつた、そして学部は法文学部と商経学部の二学部に分れた。予科の校舎はその年の中に完成したが、之は現在我々が使用して居る中学部の建物である。

中学部は上ヶ原に移転した翌年1930年（昭和5年）1月に田中部長がなくなられた。その後「真鍋うなぎ」で有名な真鍋先生が第7代部長として活躍せられた。上ヶ原移転によつて一番影響を受けたのは中学部であつたが、真鍋部長の下に多くの難関を突破して雨天体操場、地歴特別教室等の増設を見、又川村利兵衛氏の寄附の静修所と云う小礼拝堂も作られた。そして尊くも又悲しい白木君の思い出を記念する白木桜も1934年（昭和9年）からその花を咲かせることになつた。

真鍋部長は1938年（昭和13年）に停年によつて退職されてその功績によつて名誉中学部長となられた。

## 1. 新校歌の制定

明治の始め以来、関西学院には 'Old Kwansei' と云う英語の校歌があつたが、日本語の校歌を作ろうと云う考えが学生の間<sup>に</sup>起つて来た。そして学生会と同窓会は新校歌の歌詞の募集を行つて昭和7年に「我等が関西」（浜田四郎作詞、大中寅二作曲）、「かがやく学院」（松田明三郎作詞、津川主一作曲）、「六甲の東」（北村千秋作詞、大中寅二作曲）の三曲を発表した



が、余り歌われなかつた。続いて1933年（昭和8年）の春、詩人北原白秋に作詞を、学院同窓の作曲家山田耕筰に作曲をたのんで応援歌を兼ねた新校歌として「空の翼」が出来上つたのである。

## Ⅱ. 中学部キリスト教青年会のキャンプ（三日月キャンプ）

関西学院がキリスト教主義によつてその教育の根本方針とした事はよく我々の知つている所である。そして生徒の中にも創立以来キリスト教青年会（今のJ・H・Cのようなもの）を作つて生徒相互の信仰の成長に励んで来た。この動きは我国の学生キリスト教青年会運動の中でも一番早く出来たものの一つである。この中学部キリスト教青年会は1925年（大正14年）夏に小豆島で夏の修養会（キヤムプ）を行つた。それより後このキヤムプは毎年の年中行事となつた。始めの中はテントを持つていながつたが、1927年（昭和2年）多くの人々の寄付によつてテントその他の部品が出来、同年からは滋賀県雄松村（現在の近江舞子）にキヤムプを行い、又その後は日本海岸の久美浜小天橋でキヤムプをして、戦争によつて中断される迄続いた。

尚このキヤムプ（三日月キヤムプ）は戦後先輩達の後援によつて再びテントその他が寄附され、1953年より新しい三日月キヤムプとして高等部、中学部が共に利用することになつた。そして淡路島慶野松原で毎夏キヤムプを張つて居る。

## Ⅲ. 戦争と学院

中央講堂の東南側、消費組合の前に我々は関西学院には見做れないものを見る。中央にとびの模様をついた記念碑である。之には1940年（昭和15年）に出来た旌忠碑と云つて関西学院の卒業生の中で、日清戦争（1894～5年）以来の戦争に従軍して不幸戦死された人々の名前が刻んである。その名前は一列並んだだけであるが、之だけの同窓が戦死したのではない。大東亞戦争の敗戦によつてもつともつと多くの同窓が、おそらくあの記念碑全面に刻んでも





刻み切れない人々が戦死したに違いない。それ等の人々の名前は未だ刻み込まれて居ないだけなのである。我々はあの記念碑を見るたびに戦争の無意味さ、その破壊力の恐ろしさに怒りを感じる。之等の同窓達の犠牲を再びくり返さない事を誓わねばならない。その戦争によつて関西学院自身も大きな変化をうけたのである。

即ち関西学院が生れて半世紀、50周年の盛大な式典が1939年（昭和14年）に祝われてから学院は急激に困難な時代に突入して行つた。即ち1930年代以来、日本は徐々に軍国主義化し、満洲に出兵し、世界の反対を押し切つて満洲国を作り、国際連盟より脱退し、そして中国と泥沼のような戦争に入つて行つた。特に1937年（昭和12年）、北京郊外で始まつた日華の衝突は日本国内を慢性の戦時体制とし、日本軍によつて侵略された中国を援助するイギリス、アメリカの努力は、日本国内において反米、反英感情をかきたてた。

このような中にあつて、アメリカ及びカナダと密接な関係にあつた関西学院は苦難の道を歩まねばならなかつた。先づその50年目の歴史（1940年）は多年名院長として学生に教職員に慕われて居たベーツ先生の辞任に始まつた。そしてそれと同時に外人の学部長、課長も皆辞任するに至つた。それ程に日本の社会情勢は変化して来たのであつた。そして神崎驥一高等商業学校長（高等商業学部は1935年（昭和10年）以来高等商業学校となつて居た。）が第5代院長に就任した。

ベーツ先生は名誉院長とする事に決定1939年（昭和14年）2月、先生との送別に当つて次の記録が残つて居る。

‘30年にわたる永い年月、本学院のため、かわらざる犠牲的努力を致され、その間に於ける原田の森よりこの上ヶ原の地への移転、大学昇格等の輝かしい御功績を顧るとき、今先生が我が学院を去ることは惜しみても餘りがある。先生より薫陶を受けたる一万の卒業生は永く先生の徳を忘れ得ますまい。先生は御帰国になりましても我等は先生を名誉院長として推戴することを光榮とする次第であります。’

ベーツ先生の学院に残されたものの中で、今なお我々の中に残つて居るものは、我々が既に学んだ Mastery for Service の標語である。そしてベーツ先生の住んで居られた一番館はベーツ館として永くその名を記念する事にした。このようにして外人教師



達は1939年から40年3月（昭和14～5年）にかけて相ついで帰国して行つた。

大東亜戦争の開始1941年（昭和16年）12月8日と共に、多くの人々が戦場に、工場に必要となり、大学、専門学校（高等学部は大学設置と共に専門学校と云う名前に変つて居た。）では12月に卒業式が行われるようになった。中学部はまだその影響は受けなかつたが、1942年（昭和17年）10月、真鍋部長の後任であつた田中貞部長が辞任され、翌年より沓沢吉太郎部長が就任した。

この戦争の影響が一番深刻に及んだのは神学部であり、1943年（昭和18年）には遂に学院創立以来その中心となつて居た同学部は閉鎖しなければならなくなつた。之はいよいよ烈しくなつて来た戦争のために、学生は今迄あつた兵隊に行かなくてもよかつた制度（徴集猶予制）が理科系統の学校以外はなくなつたからである。このため多くの学生は勉強途中で軍隊に入り、大学等は殆んど学生が居なくなつてしまう程であつた。この事は中学部にも影響があつた。中学生は年令的に兵隊に行く年令（徴兵年令）以下であつたが、少年航空兵、少年戦車兵、海軍飛行予科練習生等中学3年以上で兵隊になれる制度があり、又その募集割当てが学校に来たので多くの生徒が之に志願して行つた。又1945年（昭和20年）には5年制であつた中学が4年制で卒業しなければならなくなつてしまつた。

この様な状態であつたので関西学院も理科系の学部を持たなければなり立たなくなる程になつたので、理工科を新設することになつた。そして航空機科、合成化学科、製薬工業科の3科で1944年（昭和19年）から発足した。戦争の圧力は関西学院の建物に迄も及んだ。即ち1944年（昭和19年）2月には海軍に中学部（現在の高等部）及び大学予科（現在の中学部）、寄宿舍、学生会館等3万坪の敷地を貸すことになつた。更に1945年（昭和20年）には川西航空機会社に現在の商学部講堂、中央講堂、文学部校舎等を貸し、中央講堂では動力機械が動くようになった。そして遂には現在の商学部別館、経済学部校舎、図書館、神学部校舎だけが残るようになってしまつた。学院に残つた学生生徒も、1944年（昭和19年）以後は全く勉強する事なく、工場に勤労働員されて毎日朝から晩迄働くこととなつた。そしてその動員は下は中学2年生迄が行くことになり、1年生だけが授業を受けた。そしてこの工場動員の学生生徒の中には空襲のために死亡するものもあつた。関西学院自体も空襲によつて被害を受け、中央講堂裏の音楽室や、旧予科食堂（現在の早天礼拝所附近）が全焼してしまつた。1945年（昭和20年）8月6日のことである。そして遂に8月15日、忘れ難い祖国日本の敗戦を迎える事になつたのである。

## Ⅷ. 新しい時代・新しい学院

戦争に敗れた。国中が焼野原になつた。関西学院の美しい芝生は雑草でおぼわれた。美しい白い建物は防空のために黒々と塗りつぶされてしまった。そしてそこから新しい時代が生れ、新しい関西学院が生れたのであつた。多くの学生、生徒、教職員が戦場から、工場から帰つて来た。海軍や川西航空機に貸して居た建物も再び関西学院のものとなり、黒々とした学院も1947年(昭和22年)には昔の白い日に映える学院となつた。荒れた校舎、校庭も除々に復興した。外人教師も多く帰つて来た。今の中学部は理工科の校舎となつた。戦争のために閉鎖になつた神学部も大学文学部の中に復活し、現在は神学部として独立するようになつた。又関西学院の精神的な支柱である礼拝も復活し、各学部で礼拝が守られるようになつた。

このような再建の希望の中にあつて関西学院にとって悲しみが訪れた。第2代院長として7年間関西学院発展のためにその広い学識と高潔な人格によつて指導された先生は87才で1948年(昭和23年)2月26日に亡くなられたのであつた。

敗戦によつて日本の社会は全く変ることになつた。そして関西学院も1947年(昭和22年)に公布された学校教育法によつた所謂6,3,3,4制によつて新しい時代を迎えた。そしてその新しい学制の下における最大の希望として発足したのが現在の中学部である。新学制によつて義務教育の年数は6ヶ年から9ヶ年に延長され中学の3年間も義務教育に含まれることとなつた。その中で関西学院中学部は私立の中学として特色のある教育をして、又関西学院における10年一貫教育の最初の3年間としての意味が非常に重要となつた。

そこで中学部の教頭であつた矢内先生を始め専任4名、講師6名の先生方によつて674名の中から選ばれた161名で新制中学部は始つた。これは今迄の中学部とは全然変つたものであつた。校舎は現在の高等部の南端の一角であつたが希望は大きかつた。その他に旧中学部は高等部として、大学予科は新制大学として法学部、文学部、経済学部、の3つに別れて出発した。又文学専門部、高等商業学校、理工専門部はその後1950年(昭和25年)に出来た2年制の短期大学となつた。之等の学部はその後1951年(昭和26

年)の理工科の閉鎖、1958年(昭和33年)の短期大学の閉鎖となり現在では次のようになつて居る。

大	学	{ <table border="0"> <tr> <td>神 学 部</td> <td rowspan="2">           {           <table border="0"> <tr> <td>法 律 学 科</td> </tr> <tr> <td>政 治 学 科</td> </tr> <tr> <td>日 本 文 学 科</td> </tr> </table> </td> </tr> <tr> <td>法 学 部</td> </tr> </table>	神 学 部	{ <table border="0"> <tr> <td>法 律 学 科</td> </tr> <tr> <td>政 治 学 科</td> </tr> <tr> <td>日 本 文 学 科</td> </tr> </table>	法 律 学 科	政 治 学 科	日 本 文 学 科	法 学 部	{ <table border="0"> <tr> <td>英 文 学 科</td> </tr> <tr> <td>哲 学 科</td> </tr> <tr> <td>美 学 科</td> </tr> <tr> <td>心 理 学 科</td> </tr> <tr> <td>教 育 学 科</td> </tr> <tr> <td>社 会 学 科</td> </tr> <tr> <td>社 会 事 業 学 科</td> </tr> <tr> <td>史 学 科</td> </tr> <tr> <td>独 文 学 科 (1959年度より)</td> </tr> </table>	英 文 学 科	哲 学 科	美 学 科	心 理 学 科	教 育 学 科	社 会 学 科	社 会 事 業 学 科	史 学 科	独 文 学 科 (1959年度より)
			神 学 部		{ <table border="0"> <tr> <td>法 律 学 科</td> </tr> <tr> <td>政 治 学 科</td> </tr> <tr> <td>日 本 文 学 科</td> </tr> </table>	法 律 学 科	政 治 学 科	日 本 文 学 科										
法 律 学 科																		
政 治 学 科																		
日 本 文 学 科																		
法 学 部																		
英 文 学 科																		
哲 学 科																		
美 学 科																		
心 理 学 科																		
教 育 学 科																		
社 会 学 科																		
社 会 事 業 学 科																		
史 学 科																		
独 文 学 科 (1959年度より)																		
文 学 部																		

|  |  | {    |         | |---------| | 経 済 学 部 | | 商 学 部   | |

なお1960年(昭和35年)からは物理学科、化学科、生物学科を持つ理学部が設置されようとして居る。又大学を卒業して更に研究を続ける人々のための大学院修士課程は3専攻に分れ、更にその上の博士課程は8専攻に分れて居る。

1950年の神崎院長の停年退職後は選挙制による4年任期の院長公選が行われるようになり、今田文学部長が院長となつた。

1954年(昭和29年)には院長は再び選挙によつてアウトターブリッチ博士にゆずられたが、同博士の停年帰国のため後任として加藤短大学長が就任した。1958年(昭和33年)の公選では経済学部教授小宮孝先生が院長となり、1959年(昭和34年)には創立70年を迎えようとして居る。この学院にランバス先生を記念するランバス記念礼拝堂が既に1000万円の寄附金によつて宗教センター横に計画され、やがて学院の精神的中心となろうとして



居る。

原田の森に7人の教師と27人の学生生徒の小さな塾として始まった関西学院は、今や400人以上の教職員と1万人に近い学生生徒を持つ日本でも有数の大学園となつた。

中学部も1959年度には普通教室4つ、小礼拝堂、理科、音楽、図工の特別教室をも含めた3階建の増築計画が完成しようとして居り、更にその後にはプール、体育館、寮が計画されて居る。之等が出来上れば設備のよさも全国の中学の中でも優秀なものの一つとなるうとして居る。

知育、徳育、體育を一本化しての教育を目標として居る中学部では、一年生が毎年4月に入学すると千刈キヤンプで3日間の生活訓練を行うことを始めとして、夏には海浜で2・3年生を中心にした三日月キヤンプを行い、毎日の礼拝、春秋の特別の宗教運動によつて宗教的情操を養つて居る。そして日曜日は各々の近くの教会に出席してその各教会でも中学生の中の中心として活躍して居る。又多くの先輩達は関西学院の建学の精神を生かして忠実な教会会員として信仰の道を歩んで居る。

勉強においても相当きびしい事は我々が體驗して居る所である。

又體育も重要なものの一つであり、春の地区対抗競技大会も1953年(昭和28年)以来毎年天皇誕生日の4月29日に行われて居る。秋には1953年(昭和28年)以来甲陽中学と定期戦、甲関戦があり、現在迄は5-1で断然各スポーツでの中学部の強さを示して居る。

このようにして3年間を過ぎた中学部生活は3年生の3月に再び千刈キヤンプでの数日の合宿で仕上げを受ける。

我々と3年間の教育の中には我々が学んで来た70年の関西学院の伝統が生きて居るのである。そしてその伝統は更に我々が受け継ぎ育て、行くものである。我々が受け継ぎ育てる事によつて我々の関西学院は更に発展して行くことを思い、そのために宗教に勉学にスポーツに精進しなければならない。





## 1. 60年記念の新校歌

1949年(昭和24年)の秋、関西学院は60年の誕生日を  
むかえて盛大な祝典を上げた。戦争の大きなきずを持ち乍ら、未  
来に向つて力強く進もうとする関西学院、たまたま日本を訪れた  
イギリスの桂冠詩人エドモンド ブランデンはこの姿を見て、文  
学部の寿岳文庫教授の願いを入れて一篇の詩を寄せた。之はたゞ  
ちに山田耕柞によつて作曲され校歌 'A Song for Kwansei'  
が出来たのである。

## 2. 千刈キヤムプ サイト

1941年(昭和16年)頃、中学部は有馬郡道場村に修養道  
場を作つたが、戦争が激しくなつて之を手離してしまつた。

一方学院は1942年(昭和17年)に宝塚の奥の桜小場に1  
7000坪の土地を買い、学生達の力で道場を作つたが、之も戦  
争中に荒れ果て、利用者がなくなつた。戦後再びキヤムプサイト  
の必要が説かれて新たに7万坪の敷地を千刈貯水池の北に買い、  
関西学院のキヤムプの中心として1955年(昭和30年)より  
その経営が始められた。今では200人を収容する設備をもつ立  
派なキヤムプサイトとして学院生を始め、阪神間の多くの利用者  
にも便宜をあたえて居る。1958年(昭和33年)にはアメリ  
カのバツクネル大学からの寄附によつてバツクネルキヤビンと云  
う診療休憩設備も出来上り、その海を越えた美しい友情を我々に  
示してくれて居る。

## 3. 中 学 部 歌

中学部では中学生の気持に合つた部歌<sup>カ</sup>色々の機会に必要な事から、部歌作製の計画がされた。そして先輩の詩人竹中郁氏に作詩、又先輩の作曲家林雄一郎氏に作曲をお願いして1957年(昭和32年)11月の中学部文化祭でその発表がなされた。



## あ　と　が　き

1955年(昭和30年)の3月に矢内先生から中学部の1年生に教えるための教科書として関西学院の歴史を作つて見るように云われて作つたのが「関西学院略史」であつた。その本を作るに当つては現在関西学院大学経済学部1年に在学中の松本忠明君の非常な助力によつて出来たものであつた。

今回その教科書も使い果したので再び関西学院の歴史の教科書を作りなおす事になつた。

そして構想を新たにして出来たものがこの「関西学院70年のあゆみ」である。然しこの本を作るにあつては松本君の助力によつて出来た「関西学院略史」を大いに参考とし、それに附加すると云う形で作り上げたものである。又今回の改訂にあつては中学部事務室の中田光子さんに色々と御助力を願つた。

従つてこゝにあらためて松本君、中田さんに対して感謝の意を表したい。

1958年10月

山　本　雅　彌



参 考 文 献

関西学院史編纂委員編 =

開校四十年記念関西学院史

(昭和4年(1929))

畑 観 三 編 =

関西学院五十年史

(昭和15年(1940))

関西学院六十年史編纂委員編 =

関西学院六十年史

(昭和24年(1949))

山 本 雅 彌 編 =

関西学院略史

(1955年)









附 録

- I Old Kwansei
- II 空 の 翼
- III A Song for Kwansei
- IV 関西学院中学部歌
- V 関西学院組織図
- VI 関西学院学生生徒一覽
- VII 歴代関西学院院长一覽
- VIII 歴代中学部長一覽
- IX 関西学院教育制度図
- X 関西学院卒業生一覽
- XI 関西学院中学部卒業生一覽
- XII 関西学院中学部学則







附錄 I            Old Kwansei

1. Tune every heart and every voice

Throw every care away;

Let all with one accord rejoice,

In praise of Old Kwansei,

In praise of Kwansei Gakuin,

In praise of Old Kwansei.

Her sons will give while they shall live,

Banzai, Banzai, Kwansei.

2. Let music rule the fleeting hour,

Let gladness fill the day,

And thrill each heart with all her power

In praise of Old Kwansei,

In praise of Kwansei Gakuin,

In praise of Old Kwansei,

Her sons will give while they shall live,

Banzai, Banzai, Kwansei.

3. No flowery chaplet would we twine,

To wither and decay;



The gems that sparkle in her crown

Shall never pass away,

Shall never pass away, Kwansei,

Shall never pass away,

Her sons will give while they shall live,

Banzai, Banzai, Kwansei.





なつかしき関西

(Old Kwansei 訳)

- 1 なべての心と声をあわせて  
憂いのかぎりをぬぐい去りて  
ともに讃えんなつかしき関西  
とこしなえに 子等は捧げん  
バンザイ バンザイ 関西
- 2 歌の調べもて 時をおゝい  
心ふるわせ 嬉こびをもて  
ともに讃えん なつかしき関西  
とこしなえに 子等は捧げん  
バンザイ バンザイ 関西
- 3 しほみ朽ち果つ 花輪編まじ  
珠なす冠の その輝き  
とわに消ゆまじなつかしき関西  
とこしなえに 子等は捧げん  
バンザイ バンザイ 関西







附 録 Ⅰ 空 の 翼

作 詩 北 原 白 秋

作 曲 山 田 耕 梓

- 1 風に思う空の翼  
輝く自由 Mastery for Service  
清明こゝに 道ありわが丘  
関西 関西 関西 関西学院

(繰返し)

ポプラははばたく  
いざひゞけ我等  
風 光 力 若きは力ぞ  
いざいざいざ 上ヶ原ふるえ  
いざいざいざ 上ヶ原ふるえ

- 2 眉にかざす 清き甲  
萌えたつ緑 Mastery for Service  
躍々更に 朗らよ我が自治

(繰返し)

- 3 旗は勇む 武庫の平野  
遙けし理想  
新月こゝに さえたり我が士気

(繰返し)









附錄 II      A Song for Kwansei

by Edmund Blunden

1. That we may both receive and give,  
    May live to learn and learn to live,  
    Kwansei, we throng—  
To you we throng, not first nor last.  
    Rejoicing in your fruitful past,  
Through seasons clear or overcast  
    Still true and strong.
2. For us the present time is grace,  
    With thankful hearts we take our place,  
    Kwansei, our own;  
And each and all, will count these hours  
    Beneath your trees, beneath your  
    towers  
One long succession of kind hours,  
    The sweetest known.
3. In every art, in every skill,  
    We promise you we bend our will,



Kwansei, to you;  
And after-comers shall acclaim  
In faith and thought, in song and  
game,  
Your love, your hope, your strength,  
your fame,  
Still strong and true.



A Song for Kwansei 訳 詩

寿 岳 文 章

1 かたみに享けて かたみに与え  
生くるを学び 学びに生きて  
      関西 きみに つどえる我等  
たからかにいざ たたえん君を  
こしかた ゆくて 晴れに 曇りに  
かわらぬみのりの  
      ゆたけき 君を

2 ひとときはいま われらのめぐみ  
みちたるこゝろ 君にたづさう  
      関西 われら  
きたりて友よ わかちあわづや  
タワーのふもと 樹の下かげに  
つきせぬおもい さちうるわしく  
      すごす この日を

3 たくみとわざの 数多くとも  
われらのはげみ たゞに示さむ  
      関西 きみに  
つゞくわかうど よろこびほのよ  
信と思患に うたと競技に  
なつかし母校の愛を  
      希いを はえを 力を









# 関西学院中学部歌

作詩 竹 中 郁

作曲 杯 雄 一 郎

まのおか このそら かせわたる

まのおか このそら ひかりみつ

はゞたく自由 胸はる自由

空のかなたに 目を注ぐ

様返し)

我等関西 関西 望みにみてる

関西学院中学部

まのおか このもり そよぎうむ

まのおか このもり いずみわく

聞き入る真理 身にしむ真理

鳥のゆききに こゝろさむ

様返し)

まのおか このつち ほめきたつ

まのおか このつち ねをまもる

かたくむ友誼 深まる友誼

まづえかわして 枝を張る

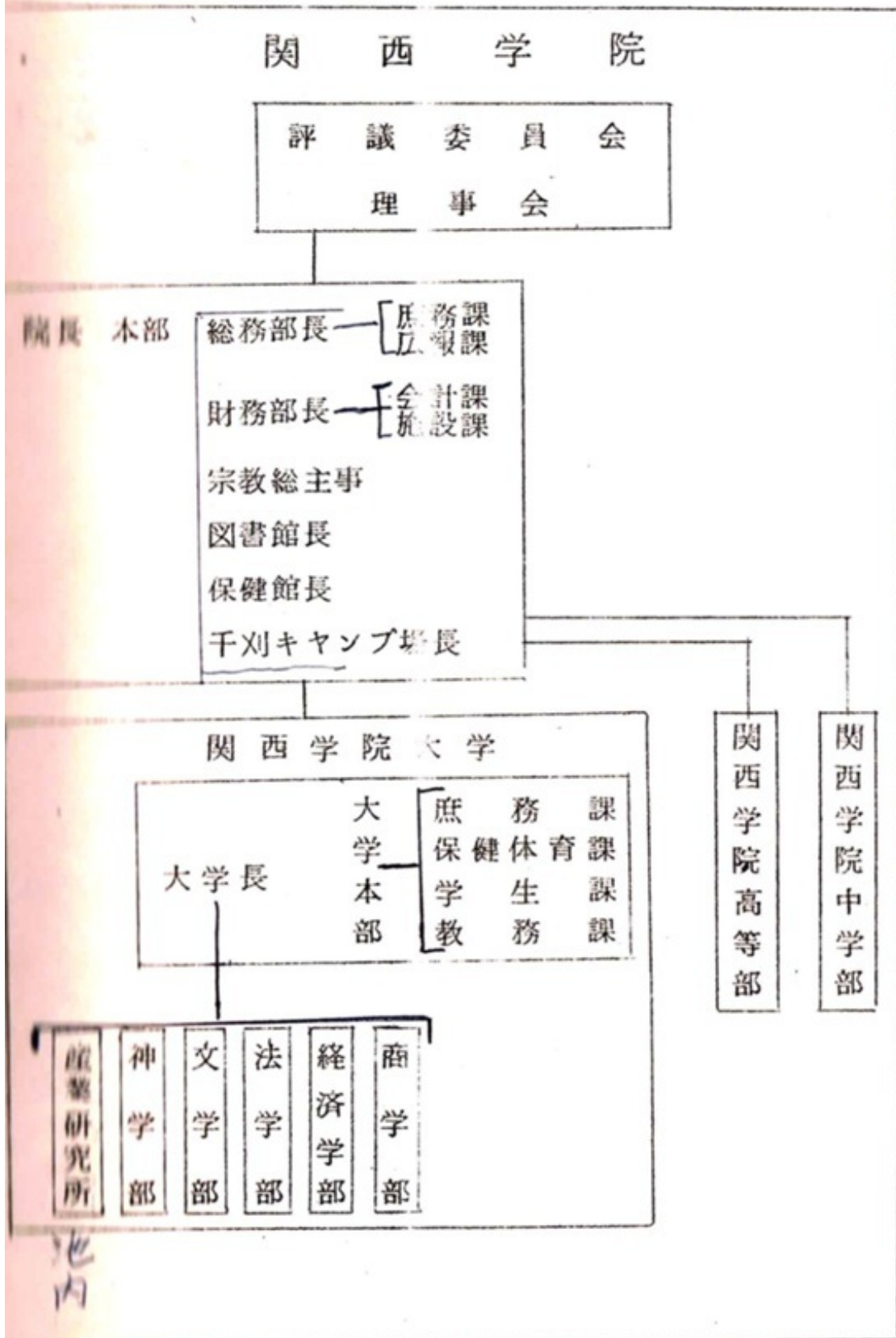
様返し)







附録Ⅴ 関西学院組織図





中  
だ  
ん





# 附錄Ⅵ 関西学院学生生徒一覽

(1958年現在)

## 1. 関西学院大学

### 大学院

#### 博士課程

聖書神学専攻	1名
日本文学専攻	8名
英文学専攻	5名
哲学専攻	7名
心理学専攻	10名
西洋史学専攻	4名
基礎法学専攻	4名
経済学専攻	8名
博士課程合計	47名

#### 修士課程

聖書神学専攻	21名
日本文学専攻	8名
英文学専攻	22名
心理学専攻	4名
教育学専攻	11名
社会学専攻	7名
西洋史学専攻	6名
政治学専攻	3名
基礎法学専攻	14名
経済学専攻	22名
経営学専攻	32名
修士課程合計	168名



大 学	4 7 名
神 学 部	
文 学 部	
日本文学科	2 2 4 名
英文学科	3 4 9 名
哲 学 科	1 0 3 名
美 学 科	1 6 7 名
心理学科	1 3 0 名
教育学科	1 5 4 名
社会学科	2 9 4 名
社会事業学科	1 9 3 名
史 学 科	1 9 7 名
文学部合計	1 8 1 1 名
法 学 部	
法律学科	1 9 9 0 名
政治学科	1 7 8 名
法学部合計	2 1 6 8 名
經 济 学 部	2 2 1 0 名
商 学 部	2 3 0 9 名
大学学部合計	8 5 4 5 名
大 学 院 合 計	2 1 5 名
関西学院大学合計	8 7 6 0 名
2 . 関西学院高等部	8 3 5 名
3 . 関西学院中学部	5 3 6 名
関西学院合計	1, 0 1 3 1 名



附録Ⅶ 歴代関西学院長一覽

W. R. Lumbuth	1888年(明治21年)	8月
	1890年(明治23年)	1月
青岡 美国	1893年(明治26年)	8月
	1916年(大正5年)	4月
J. O. C. Newton	1916年(大正5年)	4月
	1920年(大正9年)	9月
O. J. L. Bates	1920年(大正9年)	9月
	1940年(昭和15年)	9月
神崎 熾一	1940年(昭和15年)	9月
	1950年(昭和25年)	3月
今川 恵	1950年(昭和25年)	4月
	1954年(昭和29年)	3月
H. W. Outerbridge	1954年(昭和29年)	4月
	1956年(昭和31年)	5月
加藤 秀次郎	1956年(昭和31年)	6月
	1958年(昭和33年)	3月
小宮 孝	1958年(昭和33年)	4月
	現在	









## 附録Ⅷ 歴代中学部長一覽

H. W. Utley	1888年 (明治21年)	8月
	1891年 (明治24年)	9月
H. H. Wainright	1891年 (明治24年)	9月
	1907年 (明治40年)	9月
H. H. Hager	1907年 (明治40年)	9月
	1911年 (明治44年)	3月
西川 玉之助	1912年 (明治45年)	9月
	1915年 (大正4年)	7月
野村 戒三	1916年 (大正5年)	9月
	1920年 (大正9年)	2月
田中 義弘	1920年 (大正9年)	4月
	1930年 (昭和5年)	1月
真鍋 山郎	1930年 (昭和5年)	1月
	1938年 (昭和13年)	4月
田中 貞	1938年 (昭和13年)	4月
	1942年 (昭和17年)	10月
唐沢 吉太郎	1943年 (昭和18年)	3月
	1945年 (昭和20年)	4月
細 敏三	1945年 (昭和20年)	4月
	1947年 (昭和22年)	6月
岸 裕文章	1947年 (昭和22年)	6月
	1948年 (昭和23年)	4月
奥内 正一 (現在)	1947年 (昭和22年)	4月







附録Ⅱ 関西学院教育制度図

	25			
	24			
	23			
	22			
	21			
神学部	20	神学部	高等学部	
	19		(文科)	(商科)
	18			
普通学部本科	17			
	16	普通学部		
	15			
	14			
普通学部予科	13			
	12才			

1890年代

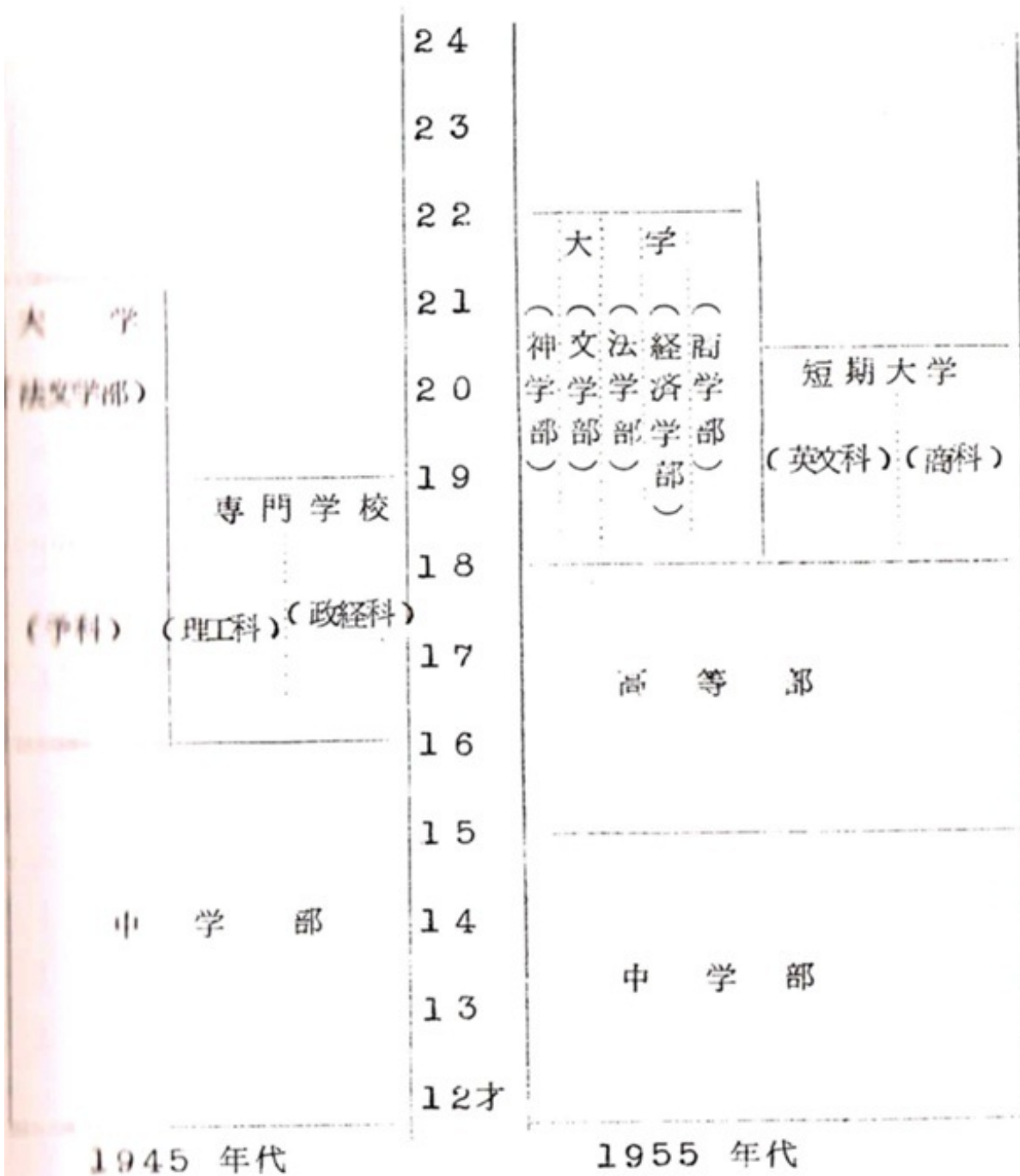
1913年代



		26	
		25	
		24	
		23	大学院
		22	大 学 神学部
(本科)		21	(本科)
神学部	文学部	20	(法文学部) (商经学部)
	(英文学科)	19	(予科)
(予科)	(社会学科)	18	(予科)
	高等商业部	17	(专门部) 高等商业学部
		16	
		15	中 学 部
		14	
		13	
		12才	
1921年代			1936年代









27	大学院（博士課程）			
26				
25				
24	大学院（修士課程）			
23				
22	学			
21	（神学部）	大	学	（商学部）
20		（文学部）	（法学部）	（経済学部）
19				
18	高等部			
17				
16				
15	中学部			
14				
13				
12				

1958年代



附 録 X 關 西 学 院 卒 業 生 一 覽

年 度	員 数	年 度	員 数
1 8 9 0( 明 2 3 )	3	1 9 0 9( 明 4 2 )	4
1 8 9 1( 明 2 4 )	1	1 9 1 0( 明 4 3 )	2 9
1 8 9 2( 明 2 5 )	2	1 9 1 1( 明 4 4 )	3 2
1 8 9 3( 明 2 6 )	3	1 9 1 2( 明 4 5 )	3 7
1 8 9 4( 明 2 7 )	6	1 9 1 3( 大 2 )	3 5
1 8 9 5( 明 2 8 )	1 0	1 9 1 4( 大 3 )	4 1
1 8 9 6( 明 2 9 )	6	1 9 1 5( 大 4 )	7 9
1 8 9 7( 明 3 0 )	7	1 9 1 6( 大 5 )	8 6
1 8 9 8( 明 3 1 )	3	1 9 1 7( 大 6 )	1 1 9
1 8 9 9( 明 3 2 )	7	1 9 1 8( 大 7 )	1 6 6
1 9 0 0( 明 3 3 )	5	1 9 1 9( 大 8 )	1 9 0
1 9 0 1( 明 3 4 )	8	1 9 2 0( 大 9 )	2 4 1
1 9 0 2( 明 3 5 )	4	1 9 2 1( 大 1 0 )	2 8 1
1 9 0 3( 明 3 6 )	4	1 9 2 2( 大 1 1 )	2 5 7
1 9 0 4( 明 3 7 )	7	1 9 2 3( 大 1 2 )	2 8 9
1 9 0 5( 明 3 8 )	1 0	1 9 2 4( 大 1 3 )	2 9 7
1 9 0 6( 明 3 9 )	1 3	1 9 2 5( 大 1 4 )	3 0 7
1 9 0 7( 明 4 0 )	1 4	1 9 2 6( 大 1 5 )	3 1 6
1 9 0 8( 明 4 1 )	2	1 9 2 7( 昭 2 )	3 1 0



年 度	員 数
1928(昭和3)	358
1929(昭 4)	352
1930(昭 5)	359
1931(昭 6)	396
1932(昭 7)	349
1933(昭 8)	410
1934(昭 9)	631
1935(昭10)	419
1936(昭11)	548
1937(昭12)	629
1938(昭13)	645
1939(昭14)	663
1940(昭15)	713
1941(昭16)	765
1942(昭17)	759
1943(昭18)	756
1944(昭19)	879
1945(昭20)	285
1946(昭21)	692
1947(昭22)	844
1948(昭23)	829
1949(昭24)	1245
1950(昭25)	1332
1951(昭26)	1331

年 度	員 数
1952(昭27)	1670
1953(昭28)	1709
1954(昭29)	1991
1955(昭30)	2209
1956(昭31)	2278
1957(昭32)	2039
1958(昭33)	
1959(昭34)	
1960(昭35)	





附録Ⅱ 関西学院中学部卒業生一覽

年度	員数	年度	員数
1892	2	1911	28
1893	2	1912	31
1894	4	1913	32
1895	5	1914	34
1896	3	1915	55
1897	7	1916	49
1898	3	1917	86
1899	6	1918	113
1900	5	1919	111
1901	8	1920	117
1902	4	1921	132
1903	4	1922	119
1904	7	1923	122
1905	7	1924	143
1906	9	1925	128
1907	6	1926	125
1908	1	1927	104
1909	0	1928	128
1910	21	1929	134

年度	員 数	年度	員 数
1930	113	1950	158
1931	144	1951	160
1932	128	1952	172
1933	136	1953	164
1934	93	1954	166
1935	101	1955	177
1936	138	1956	169
1937	168	1957	170
1938	144	1958	
1939	166	1959	
1940	189	1960	
1941	175		
1942	181		
1943	188		
1944	295		
1945	15		
1946	119		
1947	144		
1948	0		
1949	135		



第 1 章 総 則

第 1 条 本部は教育基本法及び学校教育法に拠り新制中学校の教育を行い且つ関西学院の学部として基督教による人格陶冶を行うことを目的とする

第 2 章 修業年限・学年・学期及び授業を行わない日に関する事項

第 2 条 修業年限は3年とする

第 3 条 学年は4月1日に始まり翌年3月31日に終る

第 4 条 学年を分ちて左の3学期とする

第1学期は4月1日に始まり7月31日に終る

第2学期は8月1日に始まり12月31日に終る

第3学期は1月1日に始まり3月31日に終る

第 5 条 休業日は左の如くする

1. 国の定める祝日・日曜日・関西学院創立記念日

2. 夏季・冬季・学年末その他に於て地方長官が定める日

第 3 章 教 科 課 程

第 6 条 本部に於ける教科課程は次の通りである

教科	毎週時数			教科	毎週時数		
	第1学年	第2学年	第3学年		第1学年	第2学年	第3学年
国語	5	5	5	習字	/	/	0
社会	4	4	4	音楽	2	2	/
歴史	/	/	2	保健体育	2	2	2
数学	5	5	6	英語	6	6	6
理科	5	5	6	聖書	/	/	/
図画	2	2	/	合計	34	34	34

#### 第4章 学力考査及び課程終了の認定に関する事項

第7条 各学年の課程の修了は各学期の中間及び期末における学力考査成績並びに平素の成績によつて認定する考査の方法、成績認定の基準等については別に規定を設ける

#### 第5章 教職員

第8条 本部には左の教職員を置く  
部長・教諭・嘱託講師・事務職員

#### 第6章 生徒

第9条 本部生徒の定員は各学年180名宛合計540名とする

#### 第7章 入学・退学・休学に関する事項

第10条 第1学年に入学を許可される者は素行善良、健康良好な小学校卒業者である

第11条 入学志願者が定員を超過した場合には入学考



査の期日・方法

- 第12条 第1学年・第2学年に欠員を生じた場合には転入学を許すことがある  
但し阪神間の各中学校在学中の者並びに転入学考査に合格しない者は転入学考査に合格しない者は転入学を許さない
- 第13条 第3学年への転入学は許さない
- 第14条 入学志願者は入学願書・出身小学校長の報告書等を提出しなければならない
- 第15条 入学を許可せられた者は在学証明書・戸籍抄本又は戸籍記載事項証明書を提出しなければならない
- 第16条 保証人は2名とする、内1名は保護者、1名は阪神間に居住し独立の生計を営み生徒の保護監督の責任を負ひ得る者でなければならない、但し本部に於て不相当と認めたと保証人は何時にても変更させることがある
- 第17条 生徒及び保証人に転籍・転居・転職・死亡等在学証書記載事項に異動を生じた時には直ちに届出なければならない
- 第18条 退学・転学又は休学したい者は保証人連署を以つてその事由を明記した願書を提出し部長の許可を得なければならない、但し休学は1年を超えることは出来ない
- 第19条 学業成績・人物・品行等が不良で修業の見込みがない者は退学させる事がある



第 8 章 卒業及び進学に関する事項

第 21 条 本部の全課程を修了した者には卒業証書を授与する。

第 22 条 卒業生は無試験で高等部を経て大学に進学することが出来る。

但し学院学生として不適當であると認められた者は右の進学を許さない。



ノ ー ト

---

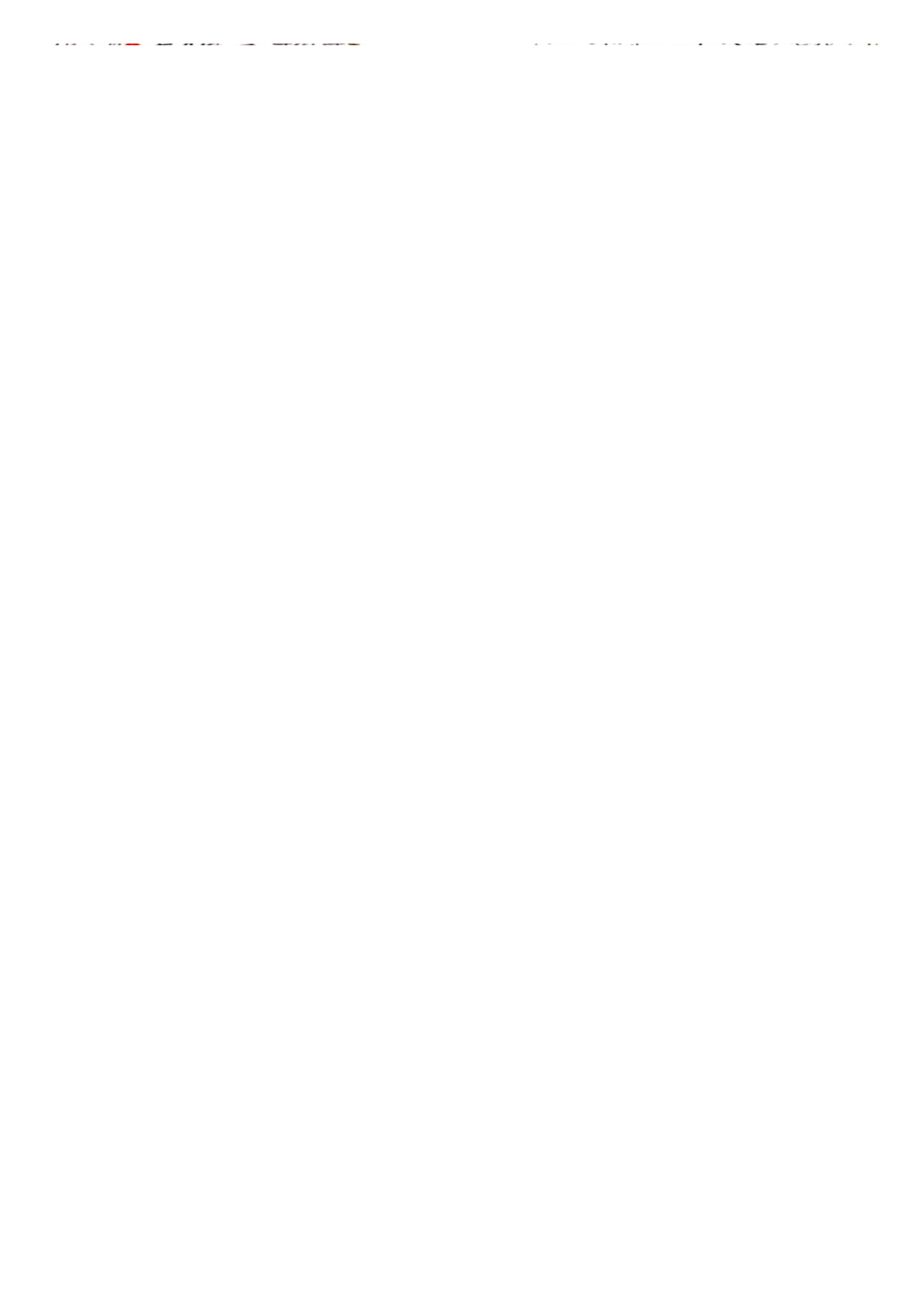
NOTE

年代	こと	が	ら	年代	こと	が	ら
1400年	ルネッサンス	北	イタリアから始まる	1871	(明治4年)能本蓮で能本		
1517	ルター	の	宗教改革。95条の意見書提出	1872	(明治5年)日本最初の教会		
1534	ヘンリー8世	首長令を	発布		日本基督公会横浜で創立		
1541	カルヴァン	の	宗教改革	1873	(明治6年)明治政府キリスト		
1558	エリザベス1世(女王)	即位			教伝道許す		
1589	秀吉	キリスト教を	禁す	ク	米国メソジスト教会(北)で		
1637	(寛永14年)	島原の	乱おこる		オナダメソジスト教会日本伝		
1639	(寛永16年)	家光	鎖国令出	ク	道を開始		
1729	オックスフォード	大学の	学生の間	1874	(明治7年)神戸ではグリーン		
1735	ウェスレー	オックスフォードを	去って		キュリック等の伝道により		
1810	アメリカで	組合派の人々	により		津第一基督公会創立		
1853	(嘉永6年)	米使ペリー	浦賀に	ク	神戸女学院創立		
1858	(安政5年)	井伊直弼	ハリスと	1875	新島襄により同志社が		
1859	(安政6年)	ヘボン	フルベツ		出来る		
1860	南北戦争	始まる	(→65)	1876	(明治9年)能本洋学校より		
1868	(慶応4年)	明治政府	キリスト教を		能本バンドを主として		
1871	(明治4~5)	岩倉	使節一行	ク	と成る		
		米視察に		1877	(明治10年)札幌農学校より		
					札幌バンドを主として		
				ク	明治学院創立		
				1878	梅花女学校創立		
				1879	活水学院創立		
				1881	鎮西学院創立		
				1882	遺愛女子高校創立		
				1883	青山学院創立		
				1884	東洋英和学院創立		
				ク	1885	米国南メソジスト教会日本	
						伝道開始	
				ク	福岡女学院創立		
				1886	J.W.ランバス, W.R.ランバス		
					V.A.デュクス	の3宣教師	神戸
					に上陸		

年代	ことごと
1887	静岡英和女学院創立
1888	同志社を大学に昇格計画出す
1889	● 関西学院創立
〃	山梨栄和学院創立
1891-2	● 自助会成立
1893	● 広島女学院創立
〃	● 久松義武先生の出題により制服を定めるための議論始まる(→4)
1894	● 予科・本科を同じ6年制を5年制に改める(→1947)
〃	● 校章決まる。生徒側から新
〃	● 月教員側からK.Gを出し決定
〃	● 創立当時の校舎2棟はその後本館が出来てから寄宿舎となった
〃	● 日清戦争始まる(→5)
1897	● 校歌 old kwansei 出来る
1904	● 日露戦争始まる(→05)
〃	● ブランチメモリアルカペル出来る
1905	● 紅と白をもってスクールカラーとする
1906	● 6月5000坪を追加購入
1908	● 創立当時の校舎を寄宿舎とし自修室と名付けた
〃	● 真鍋由郎先生(後の7代中学部長)が西性文助先生を記念して(後の4代中学部長)動物の標本を集めこれを
〃	● 西川生物学標本と名付けた
1909	● ジョルダシ博士真鍋うたみを発見
〃	● 中学部・文部省の認可を得て中学校令の学校となる
〃(→12)	● 関西学院一大発展の時期となる
1910	● カナダメソジスト教会も関西学院の経営に加わる
〃	● その結果として土地1万

年代	ことごと
1912	● 高等部できる
〃	● ベーツ先生高等部部長にたす(→17)
1913	● 定費600如木道二階建の校舎新築
1915	● 普通学部を中学部と改名
〃	● 朝日新聞社が第1回選抜野球を豊中大内球場で開催する(夏の大会)
1916	● 2代院長吉岡先生院長のためTCCニユートン先生に謝る
〃	● 吉岡先生名義院長になる
1917	● 中学部校舎全焼
〃	● 宮本常蔵岡壘投げ選手として第3回極東オリンピックに出場
〃	● 第3回選抜野球全国大会に出場し決勝まで行く
〃	● 国鉄漢馬駅新設
1918	● 神戸市電上筒井まで敷設
〃	● 兵庫大会に優勝す(野球)
〃	● 文部省大学令を出す
1919	● 全国大会に優勝(野球)
〃	● 全焼した校舎たちをかりかづくりの校舎にする
〃	● 大学令では府県立又は私立では大学昇格が認められなかったが認められるようになった時高等部学生会は大学昇格の決意を出し理事長も認め
1920	● 第3代ニユートン院長辞職後任としてベーツ先生をかえす
〃	● 全国大会に優勝(野球)
〃	● 阪急神戸線市電上筒井1丁目が終点になる
1921	● 聖和女子学院創立
〃	● ランバス先生死去

年代	ことごと	年代	ことごと
1921	●新つは文学部/つは高等商業学部となる	1929	●新校舎完成によりその年の4月から上原時代が始まった
1922	●中央講堂落成する	1930	●田中兼善学部部長死去後任の代部長として真鍋先生がなされた
1923	●ニュートン先生肖像と去る り ●関東大震災	ク	●国家が軍国化しはじめに中国と戦争に突いた
1925	●ランバース先生の肖像画をE.S.ハーゲスハイム嬢の に作ってもらった ●又肖像を入隈兵にたのんで作ってもらった	ク	●国連に脱退した
ク	●村上孝次先生が中学部野球部員の指導と勉強をかせいだ	1932	●3月に大学設置文部省に申請認可を得た
ク	●中学部キリスト教青年会(今のH.C.のほうのもの)が小豆島に夏の修養を行った	1933	●北原自秋作詞、山田耕作作曲による応援歌をかかせた新校歌「空の翼」が出来た
1926	●移転案が色々考えられた	1934	●白木樑が咲きはじめて
1927	●木村一夫は上海の第8回極東オリンピックに走り高とびの選手として出場し2位に入学	1935	●高等商業学部が高等商業学校となった
ク	●上原、移転決定	1937	●北京郊外で日華事変起る反英、反米感情をかきたてた(学院は甚難をかけた)
ク	●多くの人々の寄付によりキリスト教青年会のキャンプのテントその他の用品がそろった 同年近江まいこにテントをかけた	1938	●真鍋部長停年により退職す。名誉中学部長となされた
1928	●学院全体のスクールカラーをブルーホワイト、アンドブルーとなった	1939	●50周年の盛大な式典が祝われた(学院は甚難をかけた)
ク	●春の選抜野球に出場すおち甲子園に出ているとして優勝しアメリカ訪問旅行の機会を思えられた	ク	●ベーツ先生は名誉院長にする事に決定
ク	●上原、移転の起工式が行われた	ク(→列)	●反米、反英感情をかきたてたのでこの年から外人教師達は帰国していった
		1940	●旗忠石碑という記念石碑立つ
		ク	●ベーツ先生辞性を了す
		1941	●大東亞戦争始まる ク ●中学部長郡道場村に修養道地を作った (しかし戦争がはげしくなつたので)



年代 こととがさ

1942 ● 田中貞中学部長が辞任(学院は宝塚の奥の榎小場12/7000坪の土地を買った(しかし戦争のため利用者がなかつたので手付たした))

1943 ● 神学部由金鑽となった(これは戦争のためである)

1944 ● 田中貞部長の辞任のあと後任として青沢吉太郎部長が就任した(中学部)

1944 ● 理工科を新設した(これはたゞねに3つになり航空科・合成化学科・製薬工業科の3科が発足した)

1944 ● 海軍に中学部(今の高等部)及び大学予科(今の中学部)寄宿舎、学生会館等3万坪の敷地を賃した。

1944 ● この年以後は残った学生は勉強をほとんどおこなった(工場)で働いた

1945 ● 5年制であった中学校在が4年制で卒業した(たゞねはたがなかつた)

1945 ● 現在の商学部講堂中央講堂、文学部校舎等を川西航空機会社に賃した

1945 ● 中央講堂裏の音楽室や旧予科食堂(現在の早天礼拝所付近)が空襲で全焼した(SA6A)

年代 こととがさ

1945 ● 終戦をかわえた

1947 ● 海軍と川西航空機に復した建物も学院にかえり黒々とした学院がこの年から自由に使える学院となった

1947 ● 学校教育法による所謂6.334制となり現在の中学部が発足した

1948 ● 第2代院長吉岡先生が87才でたくなされた(2週)

1949 ● 秋60周年の盛大な式典をおこなった。

1950 ● 文学専門部、高等商業学校、理工専門部はこの年から2年制の短期大学となった。

1950 ● この年の神崎院長の停年退職後は選挙制による4年任期の院長公選が行われるようになった(今田文学部長が院長になった)

1951 ● 理工科の由金鑽となった

1953 ● 三日月キャンプは戦後先輩達の後援によって再びテントその他が寄付されこの年より三日月キャンプとして高等部中学部が共に利用することになった

1953 ● して淡路島慶野松原で毎夏キャンプを張る

1953 ● この年以來地区対抗競技大会は4月9日の天皇誕生日に行っている

1953 ● 秋にはこの年以來甲・寅戦が行われている

年代	ことごと	年代	ことごと
1954	<p>● 梶島氏のお母さんがた くたふれた記念として大金を 寄付をする。この金で長尾 画伯にたの人でうしハ又 先生の肖像画を書いてお た冷講堂にあるのがそれ。 再び</p> <p>● 院長は選挙によりアウ ターガリッジ博士となった が停年退職で帰国のた め後任としてカド藤 短 大学長が就任した。</p>		
1955	<p>● 千刈貯水池の北に7万 坪の土地を買ひ学院の キャンプの中心としてこの年 から経営が始められた。</p>		
1957	<p>● 大々中郁作詩林雄 一郎作進の中学部歌 出東る(この年の中学部の文 化祭で発表す)</p>		
1958	<p>● 経済学部教授小宮 考先生公選により院長 となる。</p> <p>● 短大閉鎖となる。</p> <p>● アメリカのバックネル大学の 寄付によりバックネルキビル をこの講堂休む設備 千刈キャンプ場に出東る</p>		
1959	<p>● 創立70周年を迎え る。</p> <p>● 普通教室4つ小礼拝 堂理科音楽 図工の特 別教室をもつ3階建の 新校舎完成す。 又、プール、体育館、寮 が計画されていす。</p>		
1960	<p>● 大学に理工科が 設置されたとすとして</p>		







1958年11月 印刷発行

関西学院70年のあゆみ

— 中学生のための関西学院史 —

定価 40円

編者 山本雅彌

印刷所 大津 定商店印刷部  
神戸②5735~6

山田文隆